

# THE BARDEX® CHAIN JACK OMNILIFT®

造船所を新たなステージへ

システムの規模、需要、  
設備投資、運用費等に  
お悩みでしょうか？

シップリフトの計画において、適切な疑問を持つことは成功への一歩となります。最適な解決策を見つけ出すには最新の技術力を要する当社「信頼のおけるアドバイザー」が必要です。





6300T OmniLift® :2022年にフランスに納入

当社の技術力は、変化し続ける世界の需要と課題に的確に対応しています。当社の強みは一つの施設において複数の市場をサポートできる点であり、これにより開発コストの最適化と投資利益の最大化を実現することが可能です。

造船所の処理能力（修繕能力等）の検討に際しては、検討の起点が不明確となるケースも少なくありません。そのような場合には、シップリフト設計の初期の段階で、施設設計における下記の「6つの検討事項」をあらかじめご理解いただくことで、検討時間およびコストの削減につながり、不要な投資や損失を回避することが可能となります。



#### 地盤

コスト管理の起点となる重要要素であり、設置予定地の地盤条件を理解することから始まります。



#### 構造

レイアウト設計の自由度が高さ、既存の制約条件を把握する必要があります。加えて、水路アクセスの特性も施設全体の配置計画に影響します。



#### 船種・船型

どの種類の船をリフトするシップリフトか、対象とする船種・船型を明確にします。



#### 運用目的

シップリフト採用の目的は、修繕、検査、新造船、あるいはその全てでしょうか。加えて、お客様の地域は洋上風力関連船のメンテナンス需要は、最新の規制やサステナビリティを満たすための推進システムや排ガス処理システムの改造需要も、将来を見据えた重要な検討要素となります。



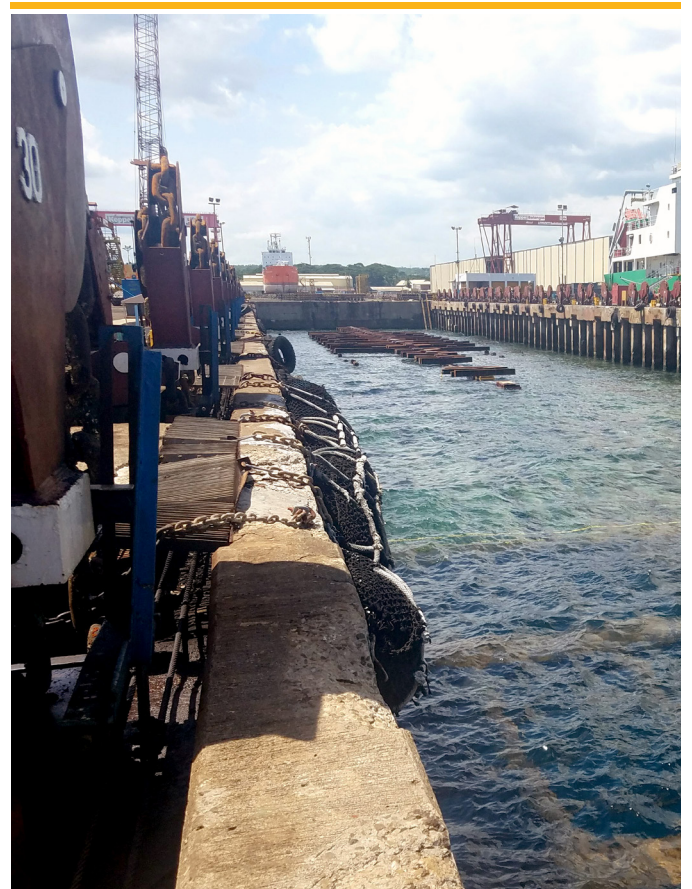
#### EPC計画

プロジェクトの実施や将来の運用を支えるために、その地域で利用可能なリソースはありますか？



#### 財務計画

処理能力の増強が必要であることは認識されている一方で、その投資の妥当性をどのように整理し、経営層にとって説得力のある事業計画として提示するかが重要となります。当社は、需要を可視化するデータ分析を通じて、実効性の高い事業計画の策定を支援します。



12,000T OmniLift® :1982年にフィリピンへ納入し、現在も稼働中

## 通常、船はドライドックにある間、その船は本来の任務を果たせません。

OmniLift®を導入すれば、1隻目の完工を待つことなく、次の船舶修理を開始できます。OmniLift®とその移送システムは、作業ベイの数に応じて複数の船舶を同時に移動・配置することが可能です。ドライドックの排水や注水を待つ時間も不要です。船舶を水面から揚げ、再び戻す作業を、いつでも即座に行えます。

**複数隻の同時ドライドックを支える柔軟なソリューション**  
複数の船舶を同時に収容できる複数の船舶を同時に収容できる設計により、作業効率を飛躍的に高めることが可能です。

### 潜水艦サポートの強化

無人潜水艇から従来型潜水艦まで、それぞれの特異な運用要件に対応するために設計された機能を備えています。

### 拡張可能なソリューション

小型船舶から大型船舶まで、幅広い船種・船型に合わせてカスタマイズ可能です。

### 作業効率を最適化する高速昇降

迅速な昇降を実現し、整備時間を短縮。船舶の早期復帰を支えます。

### 環境負荷の軽減

ドライドックは清掃が難しく、残留物が進水時に海に流れ出すリスクがあります。また、ウインチ式のシップリフトは、水線下でワイヤーロープに定期的にグリス塗布が必要となり、環境負荷や保守上の課題が生じます。当社のチェーン式の場合は、これらの問題はありません。

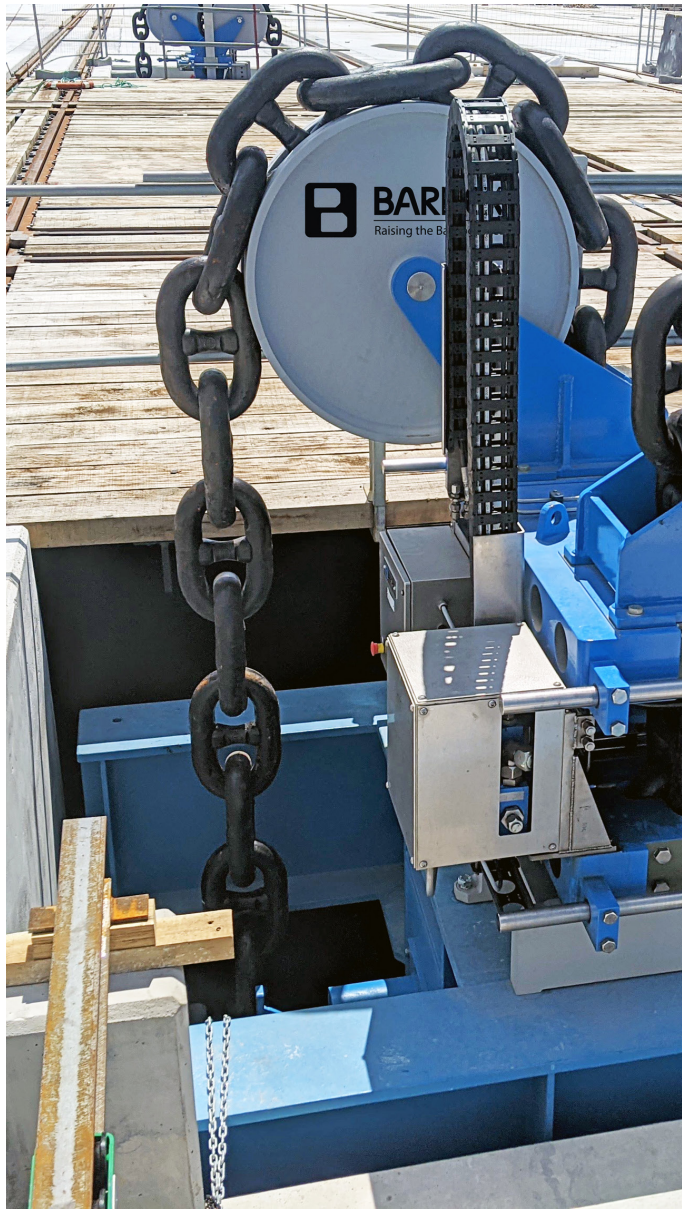
### 高度な安全対策

最先端の安全対策を取り入れており、昇降およびドライドックの工程におけるリスクを最小限に抑えることが可能です。

### リソースの最適化

システムを効率化することにより、人手や設備を最適な場所へ配置でき（適材適所）、その結果、運営コストの削減と不要な稼働停止時間を最小限にします。

ロイド船級協会の規格改定



Omnilift®プロジェクト事例





根拠のあるデータを元に、貴社にとって最も効率的なシップリフトをご提案可能です。

当社の強みは、リアルタイムのデータ分析を用いて最適なシップリフトをご提案できることにあります。水路の深さなど、お客様の現場特有の制約を加味することで、投資利益を最大化する計画をご提供致します。

お客様の地域の全ての船に対応できる設計とすれば市場の100%カバー可能かもしれませんが、それが「正解」とは限りません。投資の回収に期間を要する船舶や、耐用年数が短い特殊な船をターゲットとするのは得策ではない場合もございます。

日々、修繕待ちの船舶で施設が埋まっている状況を目にしている一方で、その拡張投資の必要性を、どのように経営判断へとつなげていくべきでしょうか。

### データに基づいた経済合理性

最適化されたシステム寸法と、推定投資回収期間（ブレイクイーブン）を示した証拠に基づくビジネスケースを経営陣に提示しましょう。私たちは、彼らの問いを「そんな予算があるか？」から「投資しない理由があるだろうか？」へと変えるお手伝いをします。

ワイヤーロープシステムの破損事故を受け、海洋環境における昇降装置のロイド船級協会（Lloyd's）の規格（通称：CLAMEコード）が下記の通り改定されました。

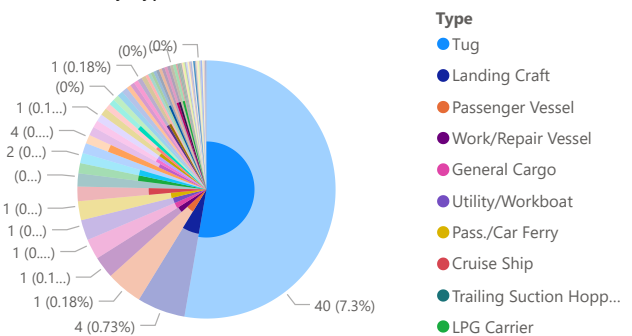
#### 主な変更点

- システム要領評価基準の見直し
- 正式なリスク分析の義務化
- ウインチ等への新しい安全装置の要求
- ワイヤーロープのフリートアングルの設計基準への適合

当社のチェーン式シップリフトは、すでに上記の基準に適合しております。

当社のシップリフトは、上記の改定による影響は受けません。この業界の変化を乗り越える為に当社にご相談ください。

Vessel Count by Type



データによる定義。データによる駆動。憶測の排除。  
Bardex Predictive Intelligence (予測的インテリジェンス)